

経営比較分析表（令和4年度決算）

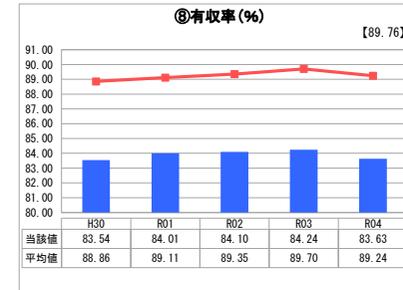
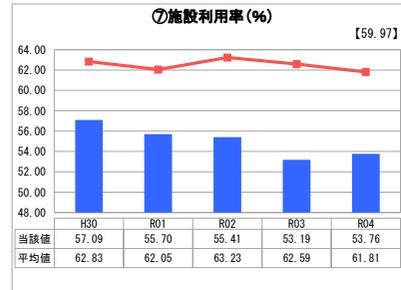
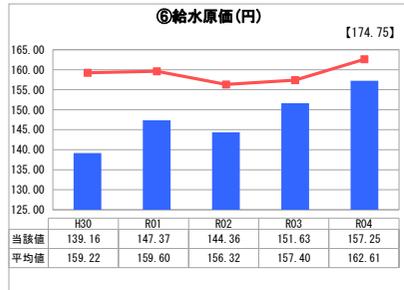
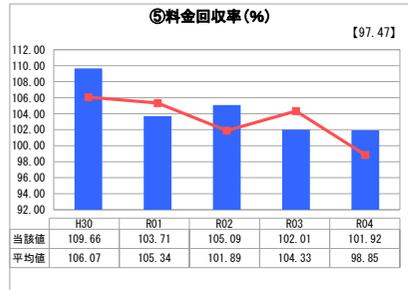
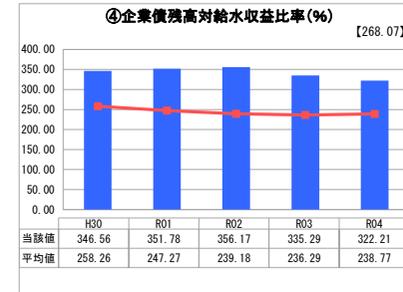
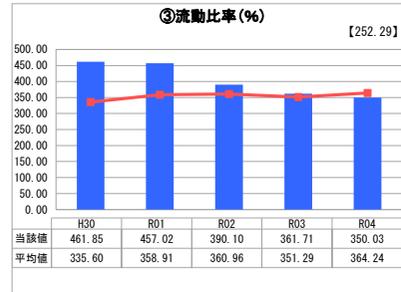
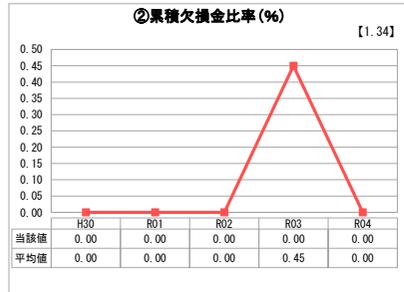
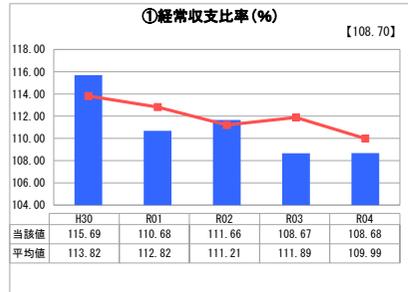
長野県 上田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	72.10	85.12	2,862	

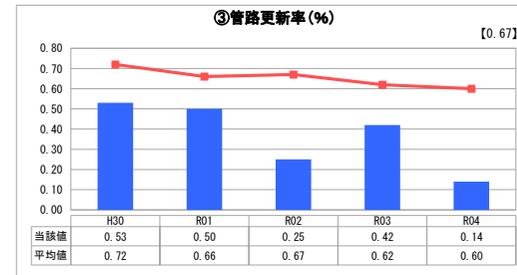
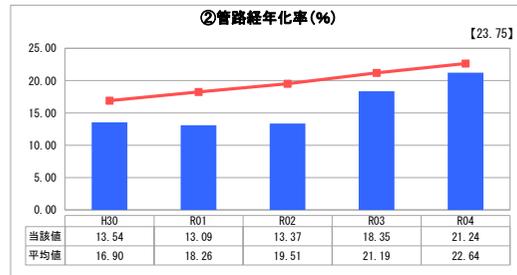
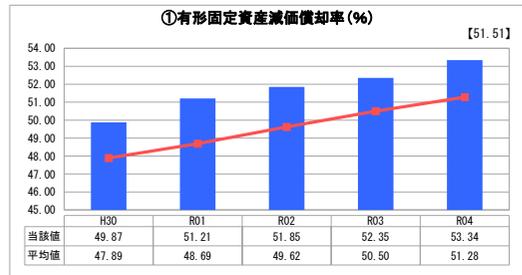
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
153,507	552.04	278.07
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
130,217	117.73	1,106.06

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、100%以上を維持しており、健全な事業運営を行っている。
- ②累積欠損比率は、令和3年度に比べ低下したが、100%以上であるため、短期的な支払い能力に問題はありませぬ。
- ③流動比率は、令和3年度に比べ低下したが、100%以上であるため、短期的な支払い能力に問題はありませぬ。
- ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値に比べて高い水準で推移しているが、繰越事業が発生し、未借入の企業債があるため、指標は減少している。
- ⑤料金回収率は、継続して100%を超えている。利益は老朽化対策等に充てている。
- ⑥給水原価は、平均値を下回っているが、動力費の増加等により令和3年度に比べ増加した。
- ⑦施設利用率は、平均値を大きく下回っており、将来の給水人口の減少を見据え、広域化・広域連携の推進も検討しているところである。
- ⑧有収率は、微減傾向にあり、類似団体平均値と比較して下回る水準で推移している。漏水調査等による管路の修繕は進めているが、修繕を上回る漏水が発生していると考えられる。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、上昇傾向にあり、更新等が必要な施設等が多くなっている。管路等の老朽化が進んでいることから、事業費の平準化を図りながら、計画的な更新を継続していく。
- ②管路経年率は、平均値を下回るものの上昇傾向にあり、老朽化が進行している状況である。
- ③管路更新率は、経年管路を中心に布設替等を進めているが、平均値を大きく下回っており、更新を要する管路の増加が見込まれる中で事業費の平準化等を図りながら計画的な更新を継続していく。

全体総括

現状において、経営の健全性は確保されているが、給水収益の減少や施設の修繕・更新費用の増加が見込まれるため、引き続き老朽化対策や施設等の耐震化などを着実に実施していく。

なお、物価と動力費が高騰し、管路の老朽化も進みつつあるが、適切な料金水準を維持しつつ、企業債残高対給水収益比率の抑制に努めたい。

老朽化している施設については、アセットマネジメント等に基づく計画的な更新やダウンサイジング等による施設の最適配置などにより、給水原価及び施設利用率の改善を図っていく。また、有形固定資産原価償却率、管路経年率及び管路更新率といった指標の推移も注視しつつ、効果的な漏水調査により有収率の上昇を目指していく。